



# アイ・リンク だより

新春号 2023.01 No.109

## INDEX

- 01 ● 代表ごあいさつ
- 03-06 ● 各社年頭ごあいさつ
- 07 ● 関東運輸局長表彰
- 08 ● スタッフさん紹介

真心つなぎ 人財づくり  
アイ・リンクグループ













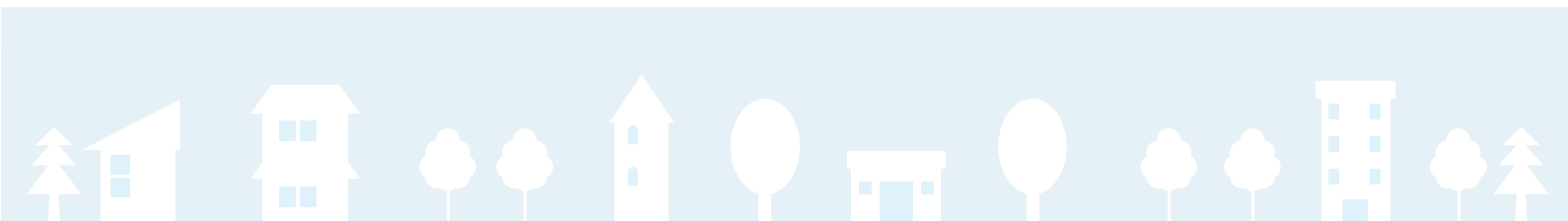
アイ・リンクグループの皆様、新年あけましておめでとうございます。

グループ各社、そのご家族の皆さま方におかれましては、新しい年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

さて、崎戸運送は昨年9月末にグループに加入し、三か月が経過致しました。2023年は、アイ・リンクイズムを社内に浸透させるほか、グループで共有できる情報や享受できるものを、フル活用する環境を整えて参りたいと考えております。

そのうえで、改めて基本に立ち返り、やるべき事を確実に実行し、継続する体制の強化を図り、環境の変化に立ち止ることなく、グループ全体の最適解を模索し、次のステージへ進んで参る所存です。

グループの皆さま、そしてご家族の皆さまのご健勝とご多幸、グループを支えて下さる方々に感謝し、今年は無事という事で、グループ全体が飛躍・躍進できますようご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



「群馬県」と聞いたとき、何を思い浮かべますか？「魅力度ランキング最下位争い」「グンマ―」等々…。  
自虐的な情報も多いですが、胸を張って言える。群馬はすごい！

アイ・リンクグループ発祥の群馬県。人口は約191万人。群馬県の運転免許保有率は、なんと50年以上1位。全国トップクラスの自動車社会です。どこを行くにも車、車…。みんな車を持っています。

大好きな場所をご紹介します。まずは「草津温泉」。観光経済新聞社主催の「につぼんの温泉100選」では20年連続1位と、日本を代表する温泉街です。草津の湯は、近くの活火山による火山ガスが合成してできた源泉で、全国的にも希少な「酸性泉」。口に含むと非常にすっぱく（ほんとはダメ）、傷があればとつても辛い思いをします。自然に湧き出る温泉の量（自然湧出量）は日本一



安全第一を体現



碩卓朗さん

(せきたくろう 61)

# 関東運輸局長表彰を受賞



安全第一で運転する

当たり前のことを  
やってただけです。

関東運輸局長表彰を  
受賞した碩さん



永年にわたり運転業務に努め、優秀な勤務成績を収めたドライバーさんを表彰する「関東運輸局長表彰」に、石島運輸倉庫輸送課の碩卓朗さん(61)が選ばれた。ドライバーとなり約35年。受賞に「安全に業務を行うという当たり前のことをやってきただけです」と話す。

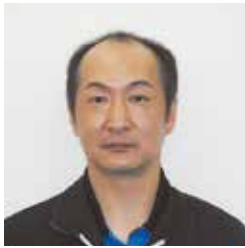
碩さんは鹿児島県生まれ。20代で上京し、ドライバーとなった。「昔は運行管理者として働いたり、リフトマンをやっていることもありました」と懐かしむ。30代中盤で群馬に移り住み、2001年に石島運輸倉庫に入社。現在はチャーター便の大型トラックを運転している。

荷物をしっかりと届けることはもちろん、「無事故で帰るのが何より大切」と話す。「時間に追われたりすると、運転が荒くなってしまう。でも、そこで無理はしなかった。事故を起こしたら何もならない。焦るとろくなことがない」と気を引き締める。

石島運輸倉庫では20年以上働くベテランで、配車係のスタッフさんからは「先輩だけれど、温かな性格で接しやすい方」と慕われる。「定年は迎えたけれど、もう少しできるかな。やれるだけは運転したい」と碩さん。今日も安全第一で真心をつないでいる。



# 新スタッフさん紹介



石島運輸倉庫西日本  
岐阜営業所(Drさん)  
三輪 武司さん(みわ たけし)



石島運輸倉庫  
本社輸送課(Drさん)  
狩野 司さん(かのう つかさ)



石島運輸倉庫  
太田流通センター(倉庫)  
藤生 勝利さん(ふじう かつとし)



アイ・リンクホールディングス  
総務部(事務職)  
窪田 真也さん(くぼた なおや)



石島運輸倉庫西日本  
福岡流通センター(Drさん)  
小池 一夫さん(こいけ かずお)



石島運輸倉庫西日本  
福岡流通センター(Drさん)  
岡谷 博記さん(おかや ひろき)



大西運輸  
(Drさん)  
藪田 和宏さん(やぶた かずひろ)



ギャバンス  
各務原センター(物流担当)  
細田 邦親さん(ほそだ くにちか)



ギャバンス  
各務原センター(事務職)  
井戸 百利子さん(いど ゆりこ)



マルトウ  
(Drさん)  
清水 亮さん(しみず りょう)



全京運輸  
(Drさん)  
池田 虎之介さん(いけだ とらのすけ)



全京運輸  
(Drさん)  
古家 浩己さん(ふるや ひろき)

新春号とはいっても、実際に制作に勤しむのは12月。2022年を振り返りながら、文章を起こしている。過去のアイ・リンクだよりをめぐり、今年も色々な人にお世話になったなあ、と感謝を込めながら▼アイ・リンクだよりは、2021年の9月から編集委員会発行となり、内容が拡充された。正直、21年は締め切りに追われながらの製作だった。載せたいものを考えるよりも、完成させることが第一で、内容にこだわらなかった。2022年は、編集委員それぞれが社内報にも慣れ、製作プロセスがしっかりと共有された▼「企画をやりたいんです」。編集会議を開くたびに、私が各委員に対して伝えていたことは、成果として現れたのは22年9月号の「ギャバンス北方センター改革」。センターの紹介、取り組み、成果…。3ページの大作で、反響も大きかった。担当した編集委員の宮南さん(ギャバンス)に、改めて感謝を伝えたい▼2023年は、さらに魅力的な冊子となるよう、デザイン・内容ともに充実させていく。また、スタッフさんから「載せてほしい」とご依頼いただければ、積極的に掲載していきたい▼今年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。(編集委員・大澤)

## 編集 後記

「企画」で彩りを



# 本年もよろしくお願ひします!

編集委員一同

